

登録コード	L2232300	開講年度	2026				
担当教員	磯部 美穂			副担当			
授業科目	ドイツ言語文化特論III						
英文授業名	German Language Culture: Basic Seminar III						
授業タイトル	ドイツ語テキスト言語学						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・3時限
講義室	人文501演習室	遠隔授業科目			読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー			⇔	ドイツ語で書かれた文テキストを読み、必要な情報を集約し、それに対する意見を自らのことばで説明できるようになる。		
	【2022年度以前カリ対象】グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力			⇔	ドイツ語で書かれた文テキストを読み、必要な情報を集約し、自らのことばで説明できるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	日常的に起こりうる現象を客観的に観察し、分析することができるようになる。		
	【2023年度以降カリ対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			⇔	ドイツ語で書かれた文テキストを読み、必要な情報を集約し、自らのことばで説明できるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	本授業は、中上級レベルのドイツ語力の習得を目的とし、ドイツ語のテキスト生成に関する概説書を解説しながら、語彙や表現の多様性について理解を深めていく。						
授業計画	テキスト言語学の基本的な考え方を概観した後に、テキスト読解と作文作業を通して、ドイツ語テキストの特徴や表現の多様性を実践的に習得していく。テキストには、ドイツ語圏の時事問題、社会・文化史に関する話題を扱ったものを使用し、受講者の関心に合わせたテーマを選択する。 第1回 ガイダンス（テキストとは何か） 第2回 テキスト読解① 第3回 文の連結 第4回 テキスト作成① 第5回 テキスト読解② 第6回 文の連結要素 第7回 テキスト作成② 第8回 テキスト読解③ 第9回 テキストの結束性 第10回 テキスト作成③ 第11回 結束性を形成する要素（合成語） 第12回 結束性を形成する要素（共成語） 第13回 結束性を形成する要素（指示詞） 第14回 結束性を形成する要素（再録） 第15回 まとめ（確認テスト）・授業アンケート 受講者の習熟度をみながら、進度を調整する。						
成績評価の方法	3回の授業課題50％と確認テスト50％の比率で総合的に判断します。						
成績評価の基準	ドイツ語のテキスト生成に関する基礎的な知識を習得し、語彙や表現の分析ができるようになれば水準にある。 ドイツ語のテキスト生成に関する基礎的な知識を習得し、テキストを分析的に読むことができるようになればやや上にある。 ドイツ語のテキスト生成に関する基礎的な知識を習得し、それを使ってドイツ語の作文ができるようになればかなり上にある。						
事前事後学習の内容	配付されたテキストはしっかりと予習すること。 授業で解説された基本事項について、参考資料を用いて理解を深めておくこと。 授業中に理解できてなかったことがあれば、質問できるように準備しておくこと。						
履修上の注意	授業には目的を明確にし、積極的に参加すること。 ドイツ語学研究に関心を持ち、高いドイツ語運用能力を備える、または、それを目指す者を対象とする。 履修する際には、学習目的・計画と合致するか十分に検討した上で受講すること。						
質問、相談への対応	メールにて対応する。isobe@shinshu-u.ac.jp						
教科書	使用しない。						

教科書	適宜、プリントを配布する。
参考書	中島悠爾他『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年